

## 第2章 柏崎市の概要

### 1 概況

本市は、新潟県のほぼ中央に位置し、面積は442.70km<sup>2</sup>、地域の南西から東部一帯にかけて、米山、黒姫山、八石山の山系によって囲まれ、北西方向は、延長42kmに及ぶ海岸線で日本海に面しています。

市のほぼ中央部を鶴川、鯖石川が日本海に注いでいて、この下流域には柏崎・刈羽平野が開け、水田地帯を形成しています。また、海岸線の南西部は、磯浜海岸となり景勝を成している一方、北東部はなだらかな砂丘が続き、海岸は遠浅になっており海水浴場となっています。

気候は、比較的温暖ですが、冬は北西の季節風が強く、山間部に入るに従って急激に積雪量が増加します。

交通の状況は、県都新潟市まで84km、北陸自動車道で1時間30分（JR信越本線特急で1時間15分）、首都圏東京へ約300km、北陸・関越自動車道で約3時間、JR上越新幹線では最短2時間の距離にあります。

昭和15年、新潟県で5番目、全国で162番目の「市」として発足以来、近隣町村を合併し、平成17年5月1日には高柳町、西山町との合併を経て今日に至っています。現在は、柏崎刈羽圏域の中心都市の役割を果たしています。

歴史的には、明治30年代に石油が噴出したことにより、日本で初めて本格的な石油精製が始まった地であり、関連して発達した機械部品製造などのものづくりによる工業が集積しています。

そして、二つの大学などの特性をいかしつつ新潟県の中核的な都市として成長するとともに、石油や天然ガスの産出や原子力発電所が立地するエネルギーのまちとして、我が国の発展にも寄与してきました。

平成19年7月16日に「新潟県中越沖地震」が発生し、市内全域が甚大な被害を受け未曾有の災害となりましたが、震災からの復旧は早いスピードで進み、震災前以上の活力を備えた復興に向け歩みを続けています。

